

岡山赤十字病院 心臓血管外科 は一と通信

平成 30 年8月

第49回日本血管外科学会中国四国地方会にて発表。

日頃は大変お世話になっております。2018年7月28日(土)に米子市で開催された第49回日本血管外科学会中国四国地方会にて中西、中村の2人が発表しました。また、旭川医科大学血管外科 東 信良教授より 下肢閉塞性動脈硬化症治療の現状と将来について 特別講演をお聞きする機会を得ました。大変勉強になりました。日頃、悩んでいることを少し整理することができたように思います。



胸部大動脈瘤ステントグラフト挿入当日に切迫破裂にて腹部大動脈瘤に緊急手術を施行した1例 中西浩之

症例は67歳男性。現病歴;3年前に腹部エコーにて腹部大動脈瘤を指摘されたが、放置していた。心配になり当科受診。CTにて胸部大動脈瘤(嚢状)、腹部大動脈瘤の診断を得た。全身麻酔下にて胸部大動脈瘤に対して開窓式ステントグラフト(Najuta)にて手術を施行した。手術終了6時間後嘔吐あり、その後左側腹部痛出現。徐々に増強。鎮痛剤も無効。腹部大動脈瘤に一致した痛みで、圧痛も認めた。造影CTにて腹部大動脈瘤破裂の所見はみとめなかった。血圧管理をおこなうも疼痛は軽減しないため腹部大動脈瘤切

迫破裂の診断にて人工血管置換術を行った。術後経過は良好で術後17日目に退院した。多発性の大動脈瘤の場合、ステントグラフト加療後に大動脈のコンプライアンスが変化して残存大動脈瘤の破裂のリスクが高まるとされる。若干の文献的考察を加えて報告した。

自動釘打機による右大腿動脈損傷の1例 中村峻輔

自動釘打機による右大腿動脈損傷の1例を経験した。症例;56歳男性。既往歴;特になし。現病歴;工作中、自動釘打ち機で誤って長さ85mmの釘を右大腿部に打ち込んだ。レントゲン検査では骨折は認めなかった。血管エコーで釘は右浅大腿動脈を穿通していたため、当科紹介となった。緊急手術を施行した。右総大腿動脈よりFogartyカテーテルを挿入し、大腿動脈の出血をコントロールした。受傷した浅大腿動脈を剥離、遮断後、釘を抜去した。損傷部位を切除後、浅大腿動脈端端吻合を行った。術後経過は良好であった。術後造影CTで、有意狭窄は認めなかった。感染の合併なく、術後11日目に退院した。非医原性の大腿動脈損傷の報告は稀である。若干の文献的検討を加えて報告した。



岡山赤十字病院

〒700-8607

岡山市北区青江二丁目1番1号

心臓血管外科 中西浩之

TEL:086-222-8811

FAX:086-222-8841

今後ともご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。